

魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラム

目次

1. 魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラムについて
2. 専門研修後の成果
3. 魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラムの特徴
4. 魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラムの研修方法
5. 魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラムの評価方法
6. 魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラム連携施設
7. 専攻医受入数
8. 地域医療・地域連携への対応
9. 実際の研修予定
10. サブスペシャリティ領域との連続性について
11. 研修の休止・中断・プログラム移動、プログラム外研修の条件
12. 専門研修プログラムを支える体制
13. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について
14. 専攻医の採用と修了

1. 魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラムについて

当院は新潟県魚沼地域の基幹病院で、地域に整形外科開業医が極端に少ないため、整形外科のプライマリーケアから3次救急までの幅広い疾患を研修できる大変ユニークな病院です。当院の整形外科の理念は、軽症から重症まで全ての運動器疾患・外傷に対し、高いレベルの診断・治療を行うことです。そして、当科を基幹施設として行う研修プログラムの理念は、「運動器疾患、外傷症例全般に対して、迅速にかつ的確な診断・治療・全身管理・社会復帰のサポートを行うための十分な能力を身につけること、かつ運動器疾患・外傷医療の進歩に寄与するための研究を行うための基礎的能力を身につけること」です。

この理念を達成するために、専門研修プログラムでは以下1)～4)の修得を重要視しています。

- 1)運動器疾患、外傷治療のプロフェッショナルとして必要な知識、技術を身につけます。紹介の制約をもたない整形外科初診外来や、ER型救急外来において多くの初期対応の習熟が可能です。また手術室や救急診療での経験、講義・カンファランス・勉強会を通じた知識の獲得、模擬骨などを用いたデモンストレーション勉強会においての手術テクニックの修得トレーニング、などが必要となります。
- 2)医師をはじめとするすべての医療スタッフを含めた診療チーム内でのリーダーシップ、コミュニケーション能力を高めます。多職種との合同カンファランスを定期的に行うことで、診療チーム全体の総合力を上げることを可能としています。
- 3)倫理的観点から客観的に見て、診療、研究の内容を正確に記載する能力を身につけます。また、幅広い社会常識や豊かな人間性を身につけ、患者さんを全人的に治療することを目標とします。
- 4)臨床の場で時に遭遇する、治療困難例や家族背景の貧困な症例などに対する対応力を身につけます。これには、院内の各職種と密な連携をとることや、先輩医師の指導下に安全性を担保しながら、困難な場面に対応する経験を積むことが重要です。

当院は、1次救急から3次救急まで対応する救急病院であるとともに、地域のプライマリーケアも担当しています。このために重症運動器疾患や多発外傷を含む重症外傷を多数受け入れ、救急科を始めとする他科と協力しながら、超急性期から急性期の高度治療を行っています。この治療にチーム治療の一員として参加していただくことで、救命を目指しながら回復後の機能回復を最大限にするための治療を行うことを学んでいただきます。

周囲には有名な登山ルートやスキーリゾートがあり、春から秋にかけては山菜採り、登山等に関連する外傷、冬期にはスキースノーボード外傷症例が多数入院し診療を行っています。四肢・骨盤・脊椎の脱臼・骨折症例や膝・肘靭帯の靭帯損傷症例も多数経験可能です。

精神科病棟を持つことから精神科疾患を持つ症例の自殺企図による多発外傷が多いのも当院の特徴であり、精神科医と密な連携をとりつつ難治症例の解決策を研修可能です。

また当院では、重症から軽症までの多数の手の外科、股関節外科、膝関節外科、脊椎脊髄外科、スポーツ外科、骨軟部腫瘍治療、リハビリテーション治療を行っており、十分な経験を積むことが可能です。日々の研修の際に、遅滞なく指導を受けることが重要ですので、検討会、回診を連日行っています。魚沼基幹病院に比較的症例が少ない関節リウマチ、小児整形外科については新潟大学医歯学総合病院や長岡赤十字病院などの関連施設にて、研修を行うことが

できます。

3年9か月間の研修期間中、多発外傷や重症外傷、重度併存症合併患者の全身的治療、管理についても学んでもらいますが、プライマリーケアから重症外傷までの研修により、整形外科専門医に求められる全ての要素を身に着けた医師の育成を目指しています。

当プログラムを構成する病院名と各施設の指導医数、年間新患数、年間手術件数を表に示しています。当プログラムに参加する病院の指導医数は68名、合計年間新患数は22,307例、手術数は11,650件であり、多数の指導医からの的確な指導を受けながら、診察や手術の執刀や助手などの多くの経験を積むことが可能です。特に外傷に関しては全国有数の症例数を経験可能です。

当プログラム参加施設の2022年実績

	指導医数	年間新患数	手術数								
			脊椎背髄	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児	腫瘍	合計
魚沼基幹病院	5	3,106	237	81	192	622	12	34	22	85	1,285
新潟大学医歯学総合病院	15	965	298	77	188	228	25	45	44	165	1,070
帝京大学医学部附属病院	22	3,203	178	157	370	831	4	167	80	110	1,897
新潟市民病院	5	1,675	293	124	330	481	15	14	34	17	1,308
長岡赤十字病院	7	2,722	305	77	134	1,152	71	0	66	43	1,848
長岡中央総合病院	6	3,511	309	421	217	442	2	113	7	8	1,519
新潟県立中央病院	6	1,743	79	344	373	197	18	49	34	17	1,111
柏崎総合医療センター	1	1,614	63	192	105	422	0	33	0	26	841
新潟県立十日町病院	1	3,768	0	213	157	353	0	6	34	8	771
合計	68	22,307	1,762	1,686	2,066	4,728	147	461	321	479	11,650

医療機関	指導可能な研修領域										指導医数
	脊椎	上肢・手	下肢	外傷	リウマチ	スポーツ	小児整形	腫瘍	リハビリ	地域医療	
魚沼基幹病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	5
新潟大学医歯学総合病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●		15
帝京大学医学部附属病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●		22
新潟市民病院	●	●	●	●	●	●			●	●	5
長岡赤十字病院	●	●	●	●	●		●		●	●	7
長岡中央総合病院	●	●	●	●		●			●	●	6
新潟県立中央病院	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	6
柏崎総合医療センター		●	●	●					●	●	1
新潟県立十日町病院		●		●						●	1

指導医と担当指導分野一覧

施設名	指導医名	分野 1	分野 2	分野 3
魚沼基幹病院	生越 章	腫瘍	小児整形	地域医療
魚沼基幹病院	平野 徹	脊椎	外傷	リハビリ
魚沼基幹病院	白旗 正幸	上肢・手	外傷	リウマチ
魚沼基幹病院	目良 恒	下肢	リハビリ	地域医療
魚沼基幹病院	上村 一成	上肢・手	外傷	
新潟大学医歯学総合病院	川島 寛之	腫瘍	上肢・手	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	近藤 直樹	リウマチ	上肢・手	下肢
新潟大学医歯学総合病院	村上 玲子	小児整形	下肢	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	有泉 高志	腫瘍	下肢	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	谷藤 理	下肢	外傷	スポーツ
新潟大学医歯学総合病院	今井 教雄	下肢	外傷	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	大橋 正幸	脊椎	外傷	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	望月 友晴	下肢	上肢・手	スポーツ
新潟大学医歯学総合病院	依田 拓也	上肢・手	外傷	小児整形
新潟大学医歯学総合病院	田仕 英希	脊椎	外傷	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	鈴木 勇人	下肢	外傷	小児整形
新潟大学医歯学総合病院	古賀 寛	下肢	外傷	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	堀米 洋二	下肢	外傷	リハビリ
新潟大学医歯学総合病院	渡辺 要	上肢・手	下肢	外傷
新潟大学医歯学総合病院	木村 慎二	リハビリ		
新潟市民病院	瀬川 博之	下肢	リウマチ	スポーツ
新潟市民病院	山下 晴義	上肢・手	外傷	リハビリ
新潟市民病院	庄司 寛和	脊椎	外傷	リハビリ
新潟市民病院	石川 裕也	脊椎	リウマチ	地域医療
新潟市民病院	酒井 芳倫	下肢	外傷	地域医療
長岡赤十字病院	羽生 忠正	リウマチ	上肢・手	下肢
長岡赤十字病院	井村 健二	下肢	外傷	リハビリ
長岡赤十字病院	三浦 一人	脊椎	外傷	リウマチ
長岡赤十字病院	森田 修	脊椎	外傷	リウマチ
長岡赤十字病院	根津 貴広	リウマチ	上肢・手	下肢
長岡赤十字病院	川嶋 禎之	下肢	小児整形	地域医療
長岡赤十字病院	川瀬 大央	上肢・手	外傷	下肢
長岡中央総合病院	高橋 一雄	脊椎	外傷	地域医療
長岡中央総合病院	矢尻 洋一	脊椎	外傷	リハビリ
長岡中央総合病院	善財 慶治	上肢・手	外傷	リハビリ
長岡中央総合病院	浦川 貴朗	脊椎	外傷	リハビリ
長岡中央総合病院	村山 敬之	下肢	外傷	スポーツ
長岡中央総合病院	八幡 美緒	脊椎	リハビリ	地域医療
新潟県立中央病院	荒井 勝光	リウマチ	上肢・手	下肢
新潟県立中央病院	小泉 雅裕	上肢・手	外傷	小児整形
新潟県立中央病院	保坂 登	脊椎	外傷	リハビリ
新潟県立中央病院	藤川 隆太	脊椎	外傷	腫瘍
新潟県立中央病院	植木 将人	上肢・手	外傷	地域医療
新潟県立中央病院	富山 泰行	下肢	外傷	スポーツ
柏崎総合医療センター	津吉 秀樹	上肢・手	外傷	地域医療
十日町病院	倉石 達也	上肢・手	外傷	地域医療

2. 専門研修後の成果

専攻医は当プログラムによる研修により、以下の 8 項目を備えた整形外科専門医となることが期待されます。

- 1) 運動器疾患、外傷について適切な診断を下し、標準的治療を行うことができる。
- 2) 運動器疾患、外傷治療の際に経験する合併症に対し適切な治療、管理を行うことができる。
- 3) 運動器疾患以外の併存症について評価し、各科専門医と協力し全身管理ができる。
- 4) 適切なリハビリテーション処方、装具処方ならびに回復期病院へ適切な引き継ぎができる。
- 5) 医の倫理に配慮した判断、行動ができる。
- 6) 患者や医療関係者と適切にコミュニケーションをとることで治療をスムーズに行うことができる。また、チーム医療のリーダーとして、チーム全体の総合力を上げ、医療の質を向上するための行動ができる。
- 7) 診療記録を的確に記載できる。
- 8) 整形外科の進歩に合わせた生涯学習を行う姿勢を修得し、また後輩医師を指導する能力を持ち、さらに整形外科の進歩に寄与する研究を実践するための基盤を獲得する。

3. 魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラムの特徴

- 1) 多数の救急搬送患者を受け入れている魚沼基幹病院(2022 年の救急車搬入2,818件)で研修を行うことで、どのような運動器疾患、外傷の急性期治療についても対応可能となります。救急科との連携が良好なことも大きな特徴です。
- 2) 魚沼基幹病院には手の外科、股関節外科、膝関節外科、脊椎脊髄外科、腫瘍、外傷治療、スポーツ医学、リハビリテーションの専門医が、また関連施設の新潟大学医歯学総合病院には、リウマチ、小児整形、腫瘍、リハビリテーションの専門医が指導医として勤務しており、最新の治療を経験することが可能です。
- 3) 新潟大学と連携したプログラムのため、大学において開催される検討会や研究会に参加する機会が多く得られ、最新知識を得ることが可能です。
- 4) プログラムに参加する各病院の症例数が豊富なため、研修中に執刀可能な手術件数が多いです(年間 120 件以上、3 年 9 か月間で 500 件を目標とする)。
- 5) 整形外科専攻医向けに、模擬骨を用いた骨折手術トレーニング、ギプス装着実技の講習会を開催し、専門医資格取得に向けて各指導医(院外医師を含む)からの集中講義を開催しています。
- 6) 新潟県医師養成修学資金の貸与を受けている修学生では、卒業後一般コースで 6 年、重点コースでは 9 年の新潟県内かつ新潟市外の病院での勤務が必要となりますが、当プログラムでは長岡赤十字病院、長岡中央総合病院、県立中央病院、柏崎総合医療センター、県立十日町病院が連携施設となっており、魚沼基幹病院 1 年、新潟大学医歯学総合病院 6 か月から 1 年以外の期間については新潟市外での勤務も可能です。

魚沼基幹病院整形外科週間予定

	月	火	水	木	金
朝 8～9時	検討会	検討会	検討会 勉強会	検討会 抄読会	検討会
午前	手術・外来	手術・外来	手術・外来	手術・外来	手術・外来
午後	リハビリ検討会 手術	手術 検査	手術 検査 リハビリ検討会	手術 検査	手術

4. 魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラムの研修方法

1) 臨床現場での学習

整形外科専門研修プログラム整備基準附属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」に沿って、魚沼基幹病院ならびに連携施設において研修を行います。当プログラムにおける専門知識習得の年次ごとの到達目標と専門技能修得の年次ごとの到達目標は、同上解説資料1「専門知識習得の年次毎の到達目標」、資料 2「専門技能修得の年次毎の到達目標」に準じるものとします。

実際の研修は、1 か月の研修を 1 単位とする単位制をとり、全カリキュラムを 10 の研修領域に分割し、当院ならびに連携施設において各分野の定められた単位数以上を研修し、3 年 9 か月間で 45 単位を修得します。

2) 臨床現場以外の学習

上記した様に、模擬骨を用いた骨折手術の実技トレーニング、ギプス装着講習、指導医による講義を開催しています。日本整形外科学会学術集会時の教育研修講演、関連学会、研究会において日本整形外科学会が認定する教育研修講演、などにおいて運動器疾患、外傷の標準的治療や、先進的な研究成果などを学習します。魚沼基幹病院が開催する、年2回の研究会や新潟大学が開催する年5回の整形外科研究会においては、多領域の大学教授クラスの講演を聴くことが可能です。また、魚沼基幹病院や新潟大学が主催する、医療倫理、医療安全、感染予防、統計学、他分野の研修会に参加することで、幅広い知識を獲得可能です。AO コース、日本骨折治療学会主催の講習会への参加も推奨しています。

魚沼基幹病院には院内図書室が整備されており、The Journal of Bone and Joint Surgery, Spine はじめ多くの雑誌がオンラインで自分のコンピューターから購読可能です。稀な文献に関しては大学事務に取り寄せてもらうことも可能です。また メディカルオンライン、UpToDate を閲覧可能で最新の医学情報が入手可能です。

3) プログラム全体と各施設によるカンファレンス

各研修施設の研修委員会の計画の下、症例検討・抄読会はすべての施設で行います。専攻医の知識・技能習得のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。

4) 学術活動に関する具体的目標とその指導体制(専攻医1人あたりの学会発表、論文等)

専攻医が学会発表年1回以上、また論文執筆を年1本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数および論文執筆数を年1回集計し、面接時に指導・助言します。

5) コアコンピテンシーの研修計画(医療倫理、医療安全、院内感染対策等)

整形外科専門医としての臨床能力(コンピテンシー)には、専門的知識・技能だけでなく、医師

としての基本的診療能力(コアコンピテンシー)が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力(コアコンピテンシー)が身につくことを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバックをすることによって基本的診療能力(コアコンピテンシー)を早期に獲得できるよう指導します。

魚沼基幹病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

5. 魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラムの評価方法

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システムを用います。専攻医は、各研修領域終了時および研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価、指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後に、カリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の達成度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファランスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

総括的評価

1) 評価項目・基準と時期

専門研修最終年度の12月に研修期間中の研修目標達成度評価報告と、経験症例数報告をもとに総合的評価を行い、専門的知識、専門的技能、医師としての倫理性、社会性などを修得したかどうかを判定します。

2) 評価の責任者

年次毎の評価は専門研修基幹施設や専門研修連携施設の専門研修指導医が行います。専門研修期間全体を通しての評価は、専門研修基幹施設の専門研修プログラム統括責任者が行います。

3) 修了判定のプロセス

研修プログラム管理委員会において、各専門研修関連施設の指導管理責任者を交えて専門研修修了判定を行います。判定基準は以下のi～vの全てを満たしていることとなります。

- i. 各修得すべき領域分野に求められている必要単位を全て満たしていること(別添の専攻医獲得単位報告書を提出)。
- ii. 行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
- iii. 臨床医として十分な適正が備わっていること。
- iv. 研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続きにより30単位を修得していること。
- v. 1回以上の学会発表、筆頭著者として1編以上の論文があること。

4) 他職種評価

専攻医に対する評価判定に、他職種(看護師、技師等)の医療従事者の意見も加えて、医師としての全体的な評価を行い専攻医評価表(資料10)に記入します。

6. 魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラム連携施設

魚沼基幹病院整形外科専門研修プログラムの施設群を構成する連携病院は、以下の通り8施設で、専門研修連携施設の認定基準を満たしています。新潟県はもちろんのこと、東京の帝京大学医学部附属病院とも連携しており、整形外科すべての分野の高度な研修をまんべんなく受けることができます。新潟県医師養成修学資金の貸与を受けている修学生では新潟県内かつ新潟市外の病院での勤務が必要となりますが、当プログラムでは魚沼基幹病院1年、新潟

大学医歯学総合病院 6 か月から1 年以外の期間については長岡赤十字病院、長岡中央総合病院、県立中央病院、柏崎総合医療センター、県立十日町病院での研修も可能です。

【新潟大学医歯学総合病院】

大正6年に本邦第4番目の整形外科として開講した伝統ある教室です。専門グループ(腫瘍、脊椎、股関節、膝・肩・スポーツ、関節リウマチ、手外科、外傷、小児)に分かれ、互いに連携をとりつつ高い専門性を持って診療を行っています。当院では全ての分野にわたる初期治療から最先端医療までの幅広い知識を学ぶことができます。本プログラム修了後は大学院進学や国内外留学、サブスペシャリティ研修等に進むことが可能です。

【帝京大学医学部附属病院】

帝京大学整形外科では、整形外科全般についての知識・技術のみならず、専門分野についてのより深い知識や技術を涵養することを目指しています。帝京大学整形外科において脊椎外科、関節外科、スポーツ医学、手外科、外傷、腫瘍、小児などの専門性の高い診療を早くから経験することで、整形外科専門医取得後のサブスペシャリティ領域の研修へと継続していくことができます。また帝京大学医学部附属病院における研修では、サブスペシャリティに対する専門性の高い研修や大学院進学に備えた臨床研究および基礎研究への深い関わりを持つことができます。ほぼすべての領域において専門性の高い治療を行っているのが特徴であり、サブスペシャリティの選択肢が幅広くあります。さらに外傷センターと連携しており、3次救急を含む高エネルギー外傷についての専門性の高い治療も学ぶことができます。

【新潟市民病院】

新潟地区の拠点病院としてほぼ全ての整形外科疾患治療を行い、特に重症、最重症例の治療を担当し、新潟市および近隣における3次救急を担い、脊椎脊髄損傷、骨盤骨折、開放骨折などの重度の外傷や緊急性の高い、重症度の高い、また合併症を持つ運動器疾患の最後の砦として、救急科など他科と協力し治療にあたっています。全ての運動器疾患・外傷に対し高いレベルの急性期治療を行うことを理念とし、救命救急センターを併設した当院には、重症外傷や重症運動器疾患が多数受診されます。救急科を始めとする他科と協力し、救命を目指しながら回復後に最大限の機能回復が得られる様な治療を行っています。脊椎手術や人工関節手術、手の外科手術にも力を入れています。整形外科医は11名で内9名が日本整形外科学会専門医で、指導医は5名です。外傷を含め手外科3名、脊椎外科3名、関節外科医3名、専攻医2名で診療を行っております。多発外傷や重症例の治療を多く経験することが可能で、専攻医には多くの症例を経験してもらうために、上級医の指導の下に主治医及び執刀医となってもらおう方針です。

【長岡赤十字病院】

新潟県中越地区での三次救急を含めた中核病院であり、県内で稼働している2機のドクターヘリの拠点の一つでもあることから、救急科とともに重度外傷を含めた様々な外傷・急性期治療を経験できます。重度外傷だけではなく、一般的な一次・二次外傷にも幅広く対応しており、外傷を含む急性期疾患に関しては偏りなくほぼすべて経験することが可能です。それらに対応する各分野に指導医が常駐しているので研修として初歩的な外傷から段階的に経験を積むことができます。急性期疾患のみではなく脊椎・リウマチ関節・手外科の各専門医が変性疾患にも積極的に手術治療を行っており県内有数の手術件数となっています。専攻医としてほぼすべての領域に携わることが可能であり、整形外科医としての基礎を築くための最適な環境を提供することができると思います。

【長岡中央総合病院】

長岡市及び新潟県中越地区の中核病院として外傷(スポーツ外傷を含め)、変性疾患等幅広い整形外科疾患に対応しています。整形外科医は 11名で内9名が日本整形外科学会専門医で、指導医は6名です。外傷を含め手外科2名、脊椎外科5名、膝・肩関節2名、後期専攻医2名で診療を行っております。一般外傷はもちろんですが、手の外科専門医、脊椎脊髄外科指導医、公認スポーツドクターのもとで専門分野の研修が可能です。基本的には専攻医に積極的に執刀医となってもらう方針です。多様な症例と多くの手術症例がありバランスのとれた研修ができます。また当院は内科はじめ他科も充実しており、合併症をもった症例にも対応でき、幅広い研修が可能です。

【新潟県立中央病院】

救命救急センターを併設し上越地域の3次救急を行っております。重傷患者の全身管理は救急科Drと連携して行っております。多くの外傷治療を経験できますし、各専門分野に精通した整形外科医が常勤し、整形外科のほぼ全領域にわたり研修が可能です。院内連携と地域連携がよいことも特徴のひとつです。例えば、大腿骨近位部骨折は年間220例ほどですが、受診後48時間以内に84%の症例で手術治療が行われ、3週間以内に回復期病院へ転院しています(2022年)。2012年から院内と地域で取り組んでいる2次骨折予防により、2次骨折発生率は着実に低下しています。

【柏崎総合医療センター】

人口約9万人の医療圏における400床の地域基幹病院、災害拠点病院である。整形外科常勤医は4名で、うち指導医が1名。年間約1000件の手術を行なっている。病院には回復期リハビリ病棟と地域包括ケア病棟を擁しており、整形外科医療、二次救急医療として自己完結型の病院であるため、患者の来院(受傷)から初期対応、治療方針決定、手術、術後リハビリ、社会復帰まで一連の流れにトータルに関わり、経験し、研修することができる。

【新潟県立十日町病院】

人口5万3千人の十日町市と人口1万人の津南町をあわせた妻有(つまり)地区の地域中核病院で令和3年9月に新病院が全面開院しました。十日町はきもの祭りや雪まつり、大地の芸術祭(ツール・ド・妻有)など1年を通してイベントが盛んな街です。整形外科常勤医は4名で症例が多く、沢山の手術を経験する事ができます。当院の大きな特徴は整形外科医が働きやすいシステムです。当院は医局の雰囲気がとても良く、また内科医師は自治医出身が多いため全員が総合診療の意識で診療を行っており、整形外科へのバックアップ体制が万全です。また3年前より大腿骨近位部骨折リエゾンサービスを導入し、多職種連携に力を入れています。令和5年度から初期臨床研修プログラムとして整形外科重点コース『骨太コース』を開始し、医学生や初期研修医教育にも力を入れています。

7. 専攻医受入数

専攻医1人あたりが経験可能な症例数を確保するため、当プログラムでは1年あたり2名、4年間で合計8名を受入数とします。

8. 地域医療・地域連携への対応

より地域に密着した医療の実践のため、十日町病院または柏崎総合医療センターにおいて、最低 3 か月(3 単位)勤務することとします。その際には地域病院における、救急診療体制や病診連携や病病連携などを経験していただきます。

当プログラムに含まれる地域医療研修病院には、経験の豊富な指導医が在職し、また定期的に新潟大学からの指導医が診療を行っているため、適切な指導を受けることが可能です。

9. 実際の研修予定

一般コースである魚沼基幹病院集中型コースでは、3 年 9 か月間の研修期間中、基幹施設で約 2 年 6 か月間、連携施設において約 1 年 3 か月間の研修を行う予定です。研修 1 年目、2 年目には基本的診察能力、基本的知識と技能の修得を目標とします。3 年目の 1 年間は連携施設である新潟大学医歯学総合病院にて、実際の臨床の場において、自己の力で診断し標準的治療を行える能力の習得を目指します。また、学会への参加や発表、そして後輩の研修医の指導などを通じて知識の整理に努めます。4 年目には、臨床チームのリーダーとして治療を行うことや、地域医療研修、サブスペシャリティ研修、研究の発表能力の向上に努めます。

また新潟県医師養成修学資金貸与修学生については、卒業後一般コースでは 6 年間、重点コースでは 9 年間の新潟市外の病院勤務が必要となりますが、当プログラム地域枠コースでは基幹施設で 1 年から 1 年半の研修を行い、長岡赤十字病院、長岡中央総合病院、県立中央病院、柏崎総合医療センター、県立十日町病院等の地域中核病院での研修が行えます。

各学年において年間 120 件以上 3 年 9 か月間で 500 件以上の手術を執刀し、学会研究会で年 1 回以上発表、そして 3 年 9 か月間で最低 1 編以上の論文を作成することを目標とします。

魚沼基幹病院集中型コース年次別研修例

年次		
1 年目	魚沼基幹病院にて研修	
2 年目	魚沼基幹病院にて研修	連携施設にて研修
3 年目	連携施設にて研修	新潟大学病院にて研修
4 年目	十日町病院	魚沼基幹病院に戻り研修, 専門医試験準備

3 年目後半は新潟大学医歯学総合病院における研修の予定です。

地域枠コース年次別研修例

年次		
1 年目	地域基幹病院 A にて研修	
2 年目	地域基幹病院 B にて研修	
3 年目	新潟大学病院にて研修	魚沼基幹病院にて研修
4 年目	魚沼基幹病院にて研修, 専門医試験準備	

3 年目前半は新潟大学医歯学総合病院における研修の予定です。

10. サブスペシャリティ領域との連続性について

当プログラム基幹施設である魚沼基幹病院には脊椎・脊髄外科(脊椎脊髄外科指導医 1 名)、関節外科、スポーツ整形外科(日本体育協会認定スポーツドクター 1 名)、外傷、手の外科(手外科専門医 1 名)、腫瘍(認定骨軟部腫瘍医 1 名)リハビリテーション(日本整形外科運動器リハビリテーション医 1 名)などのサブスペシャリティを持つ医師が勤務しています。また、連携施設には骨軟部腫瘍、小児整形、肩関節外科、足の外科、リウマチ、骨代謝などのサブスペシャリティを持つ医師が勤務しています。専攻医が希望する場合には、将来のサブスペシャリティを見据えて、研修期間の後半に専門的な研修を受けることが可能です。

11. 研修の休止・中断・プログラム移動、プログラム外研修の条件

傷病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は、合計 6 か月以内とします。限度を超えたときは、原則として少なくとも不足期間分を追加履修することとなります。疾病の場合は診断書、妊娠・出産の場合はそれぞれ証明するものの提出が必要です。留学、診療実績のない大学院の期間を研修期間に組み入れることはできません。また、研修の休止期間が 6 か月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が 1 年延期になる場合があります。専門研修プログラムの移動には、移動前・後のプログラム統括責任者及び研修委員会の同意が必要です。

12. 専門研修プログラムを支える体制

1) 基幹病院の体制

基幹施設である魚沼基幹病院は、平成30年から臨床研修医の採用を開始し、年々実績を上げています。また、病院として医療安全、感染予防、情報セキュリティー、医療の質改善などに積極的に取り組んでおり、医師向けの多くの研修会が開催されています。さらに、専攻医に対して研修のみでなく生活面でのサポートが充実しています。臨床面では地域の基幹病院として各科専門医を揃え、最新医療機器を整備し、高いレベルの治療が可能です。そして今後も指導管理責任者を中心に、研修プログラムの問題点を評価し改善を継続していきます。

2) 労働環境、労働安全、勤務条件

- ① 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- ② 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- ③ 過剰な時間外勤務を命じないようにします。

具体的な労働環境、労働安全、勤務条件等は各施設の病院規定によりますが、年間で年次休暇 5 日以上が保証されています。

3) 専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は、専門研修プログラム統括(副)責任者を委員長とし、各連携施設の専門研修指導責任者を委員とします。

魚沼基幹病院に専門研修管理事務局を置き、専門研修管理に係る財務・事務を行います。年 2 回程度の定期委員会を開催し、最終年度の 12 月に専攻医 4 年次の修了判定委員会を行います。必要時に臨時委員会を開催します。

専門研修プログラム管理委員会活動報告をまとめ、各研修連携施設および専攻医に報告します。活動報告および研修プログラムは、ホームページで公開します。

4) 専門研修プログラムの改善

- ① 1年ごとに専攻医による各指導医ならびにプログラム全体の評価を行います。
- ② この評価は無記名で行い、各専攻医に不利益が生じないようにします。
- ③ この専攻医による評価を元に、年一回プログラムの改善について専門研修プログラム管理委員会による検討を行い次年度の研修の改善を実施します。

13. 専門研修実績記録システム、マニュアル等について

1) 研修実績および評価を記録し、蓄積するシステム

原則として、日本整形外科学会が作成した整形外科専門医管理システムを用いて、整形外科専門研修カリキュラムの自己評価と、指導医評価及び症例登録を web 入力で行います。

2) 人間性などの評価の方法

指導医は研修カリキュラム「医師の法的義務と職業倫理」の項で、医師としての適性を併せて指導し、整形外科専門医管理システムにある専攻医評価表を用いて、入院患者・家族とのコミュニケーション、医療職スタッフとのコミュニケーション、全般的倫理観、責任感を評価します。

3) プログラム運用マニュアル・フォーマット等の整備

日本整形外科学会が作成した以下を用います(日本整形外科学会ホームページ参照)。

- ① 整形外科専攻医研修マニュアル
- ② 整形外科指導医マニュアル
- ③ 専攻医取得単位報告書
- ④ 専攻医評価表
- ⑤ 指導医評価表
- ⑥ カリキュラム成績表

14. 専攻医の採用と修了

1) 2024 年度プログラムに関する予定

・専攻医採用試験: 2023 年 9 月から

2) 申込に必要な書類

- ① 魚沼基幹病院 整形外科専門研修プログラム応募申込書
- ② 履歴書
- ③ 医師免許のコピー
- ④ 初期臨床研修終了見込み証明書

3) 「魚沼基幹病院 整形外科専門研修プログラム応募申込書」の入手方法

魚沼基幹病院ホームページからダウンロード

4) 申込書類の提出先

・〒949-7302 南魚沼市浦佐4132番地
魚沼基幹病院 事務部総務課 教育研修推進係
整形外科専門研修プログラム担当者 宛

5)採用試験の内容
面接

6)試験結果の通知
受験者へ、各人毎に連絡します。

7)追加募集について
専攻医の応募状況によっては、追加募集を行います。

8)詳細についての問い合わせ先(病院見学の申し込み先)

- ・全ての情報は魚沼基幹病院ホームページに掲載します。
- ・不明な点があれば、以下にお問合せください。

①E-mail:ukb-kenshu@ncmi.or.jp

②TEL:025-777-3200 FAX:025-777-2811

魚沼基幹病院 事務部総務課 教育研修推進係 星野真美子

③専門研修の内容について

魚沼基幹病院 副病院長 兼 整形外科部長
生越 章

9)修了要件

- ①各修得すべき領域分野に求められている必要単位をすべて満たしていること。
- ②行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること。
- ③臨床医として十分な適性が備わっていること。
- ④研修期間中に日本整形外科学会が主催又は認定する教育研修会を受講し、所定の手続きにより 30 単位を修得していること。
- ⑤1 回以上の学会発表を行い、また筆頭演者として 1 編以上の論文があること。

以上 ①～⑤の修了認定基準をもとに、専門研修最終年度の 12 月に、研修基幹施設の整形外科専門研修プログラム管理委員会において、各専門研修連携施設の指導管理責任者を交えて修了判定を行います。